



ワークスタイル変革による環境負荷削減

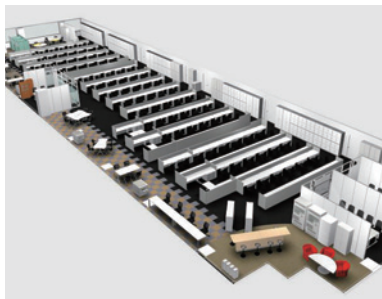
オフィス環境やワークスタイルの変革を通じて、「業務生産性向上」や「働き方の多様化」とどまらず、環境負荷の削減効果をめざしていきます。

オフィス環境改革と環境推進

業務生産性の改善やオフィススペースの効率的活用をめざし、オフィス環境改革を進めています。

2007年度には日本ユニシス本社ビルのキャビネット(書類棚)を約90%削減し、個人ロッカーを導入することにより、大幅な省スペース化を実現しました。また、2007年度下期から2008年度上期にかけてオフィスレイアウトの刷新を段階的に進めるとともに、それまでフロア・部門ごとに購入していたコピー機、プリンタの廃止、複合機(コピー、プリンタ、スキャナ)導入、共用会議室でのプロジェクタ設置など、全社的なインフラ整備を進めてきました。

こうした取り組みを進めていくなかで、当初の目的以外に、事業所の省スペース化によるエネルギー使用量の削減効果が見込まれるほか、会議時の資料などにおけるペーパーレス推進といった環境推進面での効果が現れてきています(2007年度グループ会社全体のOA用紙使用量は前年度比で約35%減少)。今後もフリーアドレスの導入やサーバ統合のさらなる促進などを検討・実施していくなかで、引き続き環境側面も意識したオフィス環境改革を進めていきます。



本社各フロアの新しいレイアウトイメージ

在宅勤務制度導入による「期待効果」

社員の「多様な働き方」の実現を目的とした在宅勤務制度を2006年度から試行的に開始しています。これまでの運用を通じて、在宅勤務によるワークライフバランス推進面での効果が現れてきていますが、一方でセキュリティの観点から自宅で紙資料を使用しないよう義務づけられていることが、ペーパーレスの推進にもつながっています。

また今後、グループ会社における在宅勤務者が増加していった場合、中長期的には、オフィススペースの効率的運用によるエネルギー使用量の削減や、通勤にともなう交通機関の利用が減ることによるCO₂排出量削減への貢献などが「期待効果」として考えられます。

2008年以降、在宅勤務を制度化し本格導入を進めていくにあたり、こうした環境負荷削減効果との相乗効果についても定量的に目標化していくことを検討しています。



在宅勤務者の声

- 在宅勤務で往復で2時間以上もの通勤がなくなったことにより、時間だけでなく、車・電車での移動にともなう環境負荷の削減を意識するようになりました。
- 在宅勤務では紙資料を使うことができないため、最初は不便に感じていましたが、今ではペーパーレスでの業務を自然に行えるようになりました。

ワークスタイル変革と環境負荷削減の主な期待効果

